

「7.11豪雨災害」20年事業小谷村シンポジウム

日時：平成27年7月12日（日） 13:30～16:30

場所：長野県小谷村 小谷小学校体育館 参加者260名



主催者：松本久志小谷村長



土砂災害の体験者の発表



パネルディスカッションの状況

主催：長野県小谷村及び白馬村

国土交通省松本砂防事務所、長野県

来賓：務台俊介 衆議院議員

国土交通省 砂防部長 大野宏之 他

シンポジウムの内容：

1. 体験者の発表（3名）

- ・小谷村在住：男性（当時小谷村消防団員）
- ・小谷村在住：女性（当時4歳で自宅が流出）
- ・白馬村在住：男性（神城断層地震で被災した地区の区長）

2. パネルディスカッション

○コーディネーター 信州大学 平松晋也 教授

○パネラー

- ・男性（小谷村内自主防災組織代表）
- ・女性（小谷村初の女性消防団員）
- ・女性（小谷小学校教諭）

○コメンテーター

- ・松本砂防事務所、長野県内同地域関係機関

■体験者の発表

体験者のうち、災害当時は四歳で、自宅が濁流に流された経験を持つ女性は、「当時のことで覚えているのは『危ない、早く逃げろ』という言葉だけ。人のきずながあったからこそ自分も元気に今がある。その大切さやありがたさを感じ、村に貢献していきたい。」と涙ながらに語った。

■パネルディスカッション

自主防災組織代表の男性は、平成7年の豪雨災害と地域の少子高齢化が、集落での自主防災組織の立ち上げにつながり、昨年11月の神城断層地震では、地域で話し合ったルールによって安否確認や避難をスムーズに行うことができたと言った。

パネルディスカッションのまとめとして、

- ①地域のつながりの大切さ
- ②地域を知って危機意識を持つ
- ③家庭・地域内の防災教育の必要性

が大切であると確認するとともに、今後も家庭で子供と話し合い防災意識を共有し、近所や地域に拡大させる動きを他の地域にも発信していくこととした。

■小谷村長のコメント

災害の教訓を次世代に語り継ぐことや、家族、近所、学校、地域のつながりの大切さを村民と確認し、大切な村を今後も残していきたい。

◆平成7年7.11豪雨災害の状況

平成7年7月11日から12日にかけて大雨で小谷村、白馬村、糸魚川市などで土砂崩れなどによる被害が多発し、小谷村では、家屋28棟が全壊し、半壊も7棟に及び、道路寸断によって多数の集落が孤立した。また、JRの被害復旧費を加えた被害総額は、1000億円超と言われる。これだけの大災害にも関わらず、幸いにも死者・行方不明者はなかった。

◆長野県神城断層地震

平成26年11月22日、長野県北部を震源として発生したマグニチュード6.7の地震、小谷村で震度6弱が観測されたが、小谷村、白馬村では、幸いにも死者・行方不明者はなかった。